

2023.2
(公社)富山県薬剤師会
広報誌

とみ やく
富 薬

2号

第45巻
No.403



マンドレーク *Mandragora officinarum* L.

(ナス科 *Solanaceae*)

マンドラゴラ酒 古代ローマの薬酒で根を細切りしてそれに糸を通し、3ヵ月間発酵前のブドウ液に浸しておく。発酵後の酒を別の甕に移す。(De Materia Medica)

成分 アルカロイド：atropine, apoatropine, scopolamine, hyoscyamine, belladonine, cuscohygrine 等。

効能 毒性が強いため現在では薬用に使用されることはないが、古くは解熱、鎮痛、催吐、幻覚、瀉下薬として、また催淫薬、催眠薬として使われた。

元富山県薬事研究所
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

〇〇表紙について〇〇



地中海沿岸原産の草丈15–30cmほどの根生葉がロゼット状になる多年草です。葉は披針形から長卵形で、縁部はほぼ全縁で波状になり、先端部は鈍頭、表面には強い光沢があり、葉脈が下方に凹みを見せるために表面は凹凸に見えます。春早く花柄を立ち上げ、径1–3cm程度の釣鐘形の花をつけます。花冠は5裂し、花色は淡青色、紫色の条線模様が入ります。春に花を咲かせるのでspring mandrakeとも呼ばれます。初夏には径4–5cm程度の球状から楕円形の果実をつけ黄熟します。根は肥大し直根性で45cmにもなり、先端部分が二股に分かれたものは人の形にも見えるところから擬人化され、迷信や民間伝承が生まれたり、魔法の材料に用いられて来ました。近縁種の*M.autumnalis*（秋咲きの）は*officinarum*（薬屋の）に非常に良く似ています。分布域も地中海からイラン西部と重なり、やはりマンドレークと呼ばれ同一のものとして扱われます。秋にロゼットの中心に濃い紫色の釣鐘形をした美しい花を多数咲かせることからautumn mandrakeと呼ばれています。また、ネパールから中国（四川省、雲南省、西藏）、ビルマ北部にかけて自生する*Mandragora caulescens*は高さ20–50cmで、葉は菱状倒披針形、葉腋から花柄を出し、釣鐘状、紫色花を咲かせます。『本草綱目』（1578）に「押不蘆」の名で、周蜜（1232–1298）の『癸辛雜志』から引用し「漠北（外蒙古）、回々地方に押不蘆という草があって、その地では、その草少量を酒に磨って飲ませる。三日経過してから別に少量の薬を投ずると、また直ちに活きるといふ」と言っています。

歴史は古く『旧約聖書』の「創世記」30章14節にマンドレークの果実が不妊治療に用いるため珍重されたことや、「雅歌」7章13節には果実を「恋なすび」といって貴重なものとして扱っていることが記されています。古代ローマのディオスコリデス（40–90）の『薬物誌』には「1コンギウス（約3.2ℓ）のレーズン酒と1ヘミナ（0.27ℓ）のマンドラゴラ酒を混ぜて服用すると、重く深い眠りに陥るといわれている」と記されています。先に述べた「押不蘆」にも仮死状態に陥ることが記されていましたが、シェイクスピア（1564–1616）の『ロミオとジュリエット』（第四幕三場）の中でロレンス神父がジュリエットに渡した薬について「この薬を飲み干すとお前の体は硬くなり、熱は奪われ魂は凍りつき、死者の仮面を身にまとう。しかしきっかり1日後、眠りから覚めた子供のように、すこやかに蘇るのだ」という場面があります。つづいて「1キュアトゥス（約47ml）のマンドラゴラ酒と、1セクスタリウス（0.53ℓ）のブドウ酒を混ぜて服用すると死に至る。適量を用いれば、痛感を麻痺させ、下痢症状を緩和させる。その匂いを嗅がせたり、浣腸剤として用いても、同じ薬効がもたらされる」と、用い方によっては死に至る毒草であることも記されています。同時期のローマの博物学者プリニウス（23–79）の『博物誌』にも眼薬に用いたことや「これには二種類ある。雄性とみなされている白い種類と、雌性と見なされている黒い種類である」と雌雄の区別をしています。後に春咲きの*M.officinarum*種をマンドレーク（mandrake：強い男）とし、秋咲きの*M.autumnalis*種をウーマンドレーク（womandrake：強い女）と区別するようになったことを述べているものと思われます。

多くの迷信や民間伝承が生まれ、土から引き抜くときには恐ろしい悲鳴を上げ、その悲鳴を聞いた人は即死、または発狂すると言ひ伝えられています。映画『ハリポッター』では魔法学校の授業の中でマンドレークを抜き取る場面が出てきます。生徒や先生全員が耳当てをしていて根の泣き叫ぶ声を聞こえないようにしているシーンです。また魔法には欠かせない材料であったようで「回復薬」はマンドレークを配合したもので、バジリクス（大蛇）による化石状態から回復する薬であり、また「元氣爆発薬」はマンドレークと二角獣の角を配合したもので風邪薬として使ったようです。

（村上守一 記）